

2021年12月期 第2四半期 決算補足説明資料

2021年8月12日

Jトラスト株式会社

本資料のお取扱いに関して

- 本資料は、当社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資の勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料は、正確性を期すために慎重に作成しておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の予測や情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。
- 本資料に記載された意見や予測等の情報は、本資料作成時点の当社の判断によるものであり、潜在的リスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績及び記載されている将来見通しとは乖離が生じることがありますのでご承知おきください。

【 本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先 】

Jトラスト株式会社 広報・IR部

TEL (03) 4330-9100

URL:<https://www.jt-corp.co.jp/>

1. 主要な経営指標の推移
2. 2021年12月期 第2四半期 連結決算概要
 - 1) 連結業績（累計）の前期比較
 - 2) セグメント別営業収益及び営業利益（連結・累計）の前期比較
3. 2021年12月期 連結決算進捗状況

「データ集」につきましては、弊社ウェブサイトに記載しております。

併せてご覧いただけますようお願い申し上げます。

(IR情報_IR資料室_決算資料_財務データ)

https://www.jt-corp.co.jp/ir/library/ir_data_00/

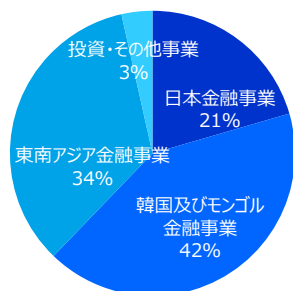
1. 主要な経営指標の推移

(単位: 百万円)

	2021年6月30日 現在
時価総額(百万円)	42,723
発行済み株式数 (株)	115,469,910
株価(円)	370

	2019年3月期 ※1	2019年12月期 ※2※4	2020年12月期 ※3	2021年12月期 2Q (1-6月)
営業収益	74,935	24,728	44,326	22,340
営業費用	78,253	16,054	23,695	11,403
営業総利益	-3,318	8,673	20,630	10,936
販売費及び一般管理費	28,488	18,926	22,485	11,083
その他の収益	366	5,215	624	7,342
その他の費用	1,159	93	724	35
営業利益	-32,600	-5,130	-1,953	7,160
金融収益	1,612	76	2,052	1,160
金融費用	110	472	283	869
持分法による投資損益	-36	-	-	113
税引前利益	-31,135	-5,526	-184	7,565
親会社の所有者に帰属する 当期利益	-36,107	-3,260	-5,342	3,894
営業収益営業利益率	-43.50%	-20.75%	-4.41%	32.05%
ROA(総資産利益率)※5	-5.45%	-0.62%	-0.85%	1.40%
ROE(自己資本利益率)※6	-29.06%	-4.26%	-5.58%	8.22%

営業収益構成 2021年12月期 第2四半期(累計)



- ※1 税引前利益までの数値について、非継続事業（ハイライツ・エンタテインメント）を除く数値で表示しております。
- ※2 税引前利益までの数値について、非継続事業（キーノート、Jトラストカード、JT親愛貯蓄銀行、JT貯蓄銀行、キーホルダー（子会社含む））を除く数値で表示しております。
- ※3 税引前利益までの数値について、非継続事業（キーノート、Jトラストカード、JT親愛貯蓄銀行、キーホルダー（子会社含む））を除く数値で表示しております。また、JT貯蓄銀行について、株式譲渡を延期したことにより継続事業としたため、税引前利益までの数値について、継続事業への遡及修正を反映しております。
- ※4 オルファスの株式交換に係る暫定的な会計処理の確定による遡及修正を反映しております。
- ※5 ROA(年換算) = 親会社の所有者に帰属する当期利益 ÷ 資産合計 (%) ※ 資産合計(前期末 + 当期末) / 2
- ※6 ROE(年換算) = 親会社の所有者に帰属する当期利益 ÷ 親会社の所有者帰属持分 (%) ※ 親会社の所有者帰属持分(前期末 + 当期末) / 2

2021年12月期第2四半期(4~6月)

当社グループの主な取り組みについて(一部、提出時点での取り組みを含む)

(i) 日本での事業展開

(Jトラスト)

- 保有するNexus Bank(株)の新株予約権の一部譲渡
2019年3月27日、第三者割当により引き受けたもの、保有方針を純投資目的としており、株主価値の向上に資する有利な条件での行使及び売却を模索する中、今般、(株)オータスから申し出があり、譲渡を決議

(日本保証)

- 海外不動産担保ローン及びクラウドファンディングを活用した保証事業の拡大
 - 海外不動産担保ローン 2021年4月、提携先の三井不動産リアルティ(株)とプレビルド(竣工前)でも利用可能なサービスの開始
 - クラウドファンディング 提携先企業がクラウドファンディングサイトを通じて募集する商品に、日本保証の債務保証を組み込み
<保証提携先の拡大> (2021年7月末現在)
 - 融資型クラウドファンディング⇒ (株)CAMPFIRE 他3社、不動産投資型クラウドファンディング⇒ (株)グローバルス他 2社

(ii) 海外での事業展開

(Jトラストアジア)

- Group Lease PCLとの訴訟判決の一部履行
Jトラストアジアは、シンガポールの控訴裁判所が下した判決に基づき、Group Lease Holdings Pte.Ltd. (GLH) 及び此下益司氏より、当該勝訴判決の一部履行として2021年1月11日に37,000千米ドルを受領したのに続き、GLHより4月7日に17,000千米ドル、4月29日に7,200千米ドル、5月14日に1,250千米ドルを受領

(Jトラスト)

- 2021年4月に韓国のJT貯蓄銀行及びJTキャピタルの株式譲渡を決議
事業ポートフォリオの価値や将来性について徹底的な見直しによる収益構造の改善を図る
 - JTキャピタルの全株式をVI金融投資(株)に譲渡
 - JT貯蓄銀行の全株式をVI金融投資(株)もしくは許容された譲受人※に譲渡
することを決議、①について株式譲渡契約を締結⇒譲渡完了日は8月末を予定

※VI金融投資の了解覚書上の地位及び権利・義務の譲渡及び移転について当社が同意した譲受人

1) 連結業績（累計）の前期比較

※ 2020年12月期に連結の範囲から除外したキーノート、Jトラストカード、JT親愛貯蓄銀行、キーホルダー（子会社含む）の業績につきましては、IFRS第5号（売却目的で保有する非流動資産及び非継続事業）に基づき非継続事業に分類したため、2020年12月期第2Q（1-6月）累計の関連する数値について遡及修正しております。

(単位:百万円)

	2020年12月期 第2Q（1-6月） 累計		2021年12月期 第2Q（1-6月） 累計		前期 増減	増減 率 (%)	主な増減要因
	実績	百分比 (%)	実績	百分比 (%)			
営業収益	21,625	100.0	22,340	100.0	714	3.3	増 銀行業における貸出金の増加に伴い 利息収益が増加 減 ・ 営業貸付金の減少 に伴い 利息収益が減少 ・Jトラスト銀行インドネシアにおいて、 銀行業における有価証券の減少 に伴い 利息収益が減少
営業費用	11,851	54.8	11,403	51.0	-448	-3.8	増 ・東南アジア金融事業で、銀行預金残高の増加により 銀行業預金利息費用が増加 減 Jトラスト銀行インドネシアにおいて、 前期 、保有有価証券の売却に伴い 有価証券売却損を計上したこと に 比べ当期減少
販売費及び一般管理費	11,091	51.3	11,083	49.6	-8	-0.1	
その他の収益・費用	277	1.3	7,307	32.7	7,029	—	増 ・シンガポールでの訴訟における 勝訴判決の一部履行金を受領 ・インドネシアでの訴訟における進展を踏まえ 訴訟損失引当金を取崩し
営業利益	-1,040	-4.8	7,160	32.1	8,201	—	
金融収益・費用	-4	-0.0	290	1.3	295	—	増 ・Nexus Bankの普通株式及び新株予約権の譲渡に係る 投資有価証券売却益の計上 ・Nexus Bank及び澤田ホールディングスの普通株式に係る 投資有価証券評価益の計上 減 ・Nexus BankのA種優先株式に係る 投資有価証券評価損の計上
持分法による投資利益・投資損失	—	—	113	0.5	113	—	増 KeyHolder について持分法による 投資利益 を計上
税引前利益	-1,045	-4.8	7,565	33.9	8,610	—	
法人所得税費用他	125	0.6	3,783	16.9	3,657	—	増 保有する澤田ホールディングス 株式の評価益 や売却を予定しているJTキャピタル及びJT貯蓄銀行の 留保利益に対する繰延税金負債の計上 、JT貯蓄銀行の 株式譲渡延期による繰延税金資産計上額の見直し 減 保有するNexus Bank 株式の評価損 を計上
継続事業からの当期(四半期)利益	-1,170	-5.4	3,782	16.9	4,953	—	
非継続事業からの当期(四半期)利益	1,024	4.7	—	—	-1,024	—	減 前期 、株式交換及び株式譲渡を行ったことにより該当する会社を 非継続事業に分類 し組替で表示
非支配持分	-589	-2.7	-112	-0.5	476	—	
親会社の所有者に帰属する当期(四半期)利益	442	2.0	3,894	17.4	3,452	780.2	

2) セグメント別営業収益及び営業利益（連結・累計） の前期比較

※ 2020年12月期に連結の範囲から除外したキーノート、Jトラストカード、JT親愛貯蓄銀行、キーホルダー（子会社含む）の業績につきましては、IFRS第5号（売却目的で保有する非流動資産及び非継続事業）に基づき非継続事業に分類したため、2020年12月期第2Q（1-6月）累計の関連する数値について遡及修正しております。

（単位：百万円）

		2020年12月期 第2Q（1-6月） 累計	2021年12月期 第2Q（1-6月） 累計	前期 増減	増減率 （%）	主な増減要因
日本 金融事業	営業収益	4,561	4,640	78	1.7	・アパートローンや個品割賦に対する保証残高の減少により 保証料収益が若干減少 した一方で、買取債権の回収が好調で 買取債権にかかる利息収益が増加
	営業利益	2,237	2,430	193	8.6	・日本保証において、買取債権の将来CFの見直しに伴い 貸倒引当金繰入額が減少
韓国及び モンゴル 金融事業	営業収益	8,567	9,424	857	10.0	・JTキャピタルにおける営業貸付金の減少に伴い、 営業貸付金にかかる利息収益が減少 した一方で、 貯蓄銀行業における利息収益や、有価証券評価益が増加
	営業利益	1,356	2,189	833	61.5	・営業収益の増加 ・ 経費削減 効果により販売費及び一般管理費が減少
東南アジ ア金融事 業	営業収益	7,941	7,752	-188	-2.4	・ 銀行業における貸出金の増加に伴い利息収益が増加 した一方で、 営業貸付金の減少や銀行業における有価証券の減少に伴い利息収益が減少 したことや、 前期、保有有価証券の売却に伴い有価証券売却益を計上したこと に比べ 当期減少 したこと、また 前期、大型の簿外回収益を計上 したことに比べ 当期減少 したこと等により減少
	営業利益	-2,894	-2,084	809	—	・銀行預金残高の増加により 銀行業預金利息費用が増加 した一方で、 前期、保有有価証券の売却に伴い有価証券売却損を計上したこと に比べ 当期営業費用が減少 したことや、現地に提起されている訴訟の進展を踏まえ、 訴訟損失引当金を取り崩した こと等により増加
投資事業	営業収益	503	427	-76	-15.2	
	営業利益	-822	5,390	6,212	—	・訴訟関係費用が増加するも、シンガポールにおいて、Jトラストアジアが提起していた控訴裁判所における訴訟の 勝訴判決の一部履行を受けた ことにより増加
その他の 事業	営業収益	326	361	34	10.7	
	営業利益	-274	-41	233	—	Jトラストシステムにおいて、 経費削減 効果により販売費及び一般管理費が減少
連結	営業収益	21,625	22,340	714	3.3	
	営業利益	-1,040	7,160	8,201	—	

3. 2021年12月期 連結決算進捗状況

セグメント別業績予想に対する進捗

(単位:百万円)

2021年12月期第2Q (1月-6月)		業績予想	実績	進捗率 (%)	今後の戦略等
日本金融事業	営業収益	8,359	4,640	55.5	<ul style="list-style-type: none"> ・従前どおり、保証事業、債権回収事業に注力 ・保証事業においては、既存の信用保証残高からの安定的な保証料収益を計上。アパートローン保証に代わり、不動産担保ローン、クラウドファンディングの保証等、保証商品の多角化を推進 ・回収事業についても順調に推移
	営業利益	3,674	2,430	66.2	
韓国及びモンゴル金融事業	営業収益	13,695	9,424	68.8	<ul style="list-style-type: none"> ・従前どおり、貯蓄銀行業、キャピタル業務と債権回収業務による安定的な利息収益を計上、今後も「量の成長」から「質の成長」を目指す ・修正業績予想では、JT貯蓄銀行を継続事業、JTキャピタルを非継続事業として再計算 ・銀行業における貸出金からの利息収益が順調に推移しており、今後も安定的な収益を見込む
	営業利益	2,685	2,189	81.6	
東南アジア金融事業	営業収益	18,921	7,752	41.0	<p>インドネシアはほぼ計画どおり、カンボジアは計画を上回って推移 (Jトラスト銀行インドネシア)</p> <p>以下3つを経営課題とし収益確保に取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・債権の積み上げ <ol style="list-style-type: none"> ①ローン残高の増加：パンデミックの中、事故率の低い大手企業を中心としてコーポレートローン・コマーシャルローンを中心。 ②社債の増加：格付Aマイナス以上への投資を積極推進、プライマリー/セカンダリー市場への参加 ③貸出増強、調達コスト低減：ビジネス部門と連携、営業プロセスの可視化により、貸出増強、小口預金獲得、新規口座獲得を通じて、COFの引き下げを図り調達コストを低減、金利収益改善を目指す ④マルチファイナンス <ul style="list-style-type: none"> 低リスク、安定顧客へのマルチファイナンスローンに注力 ・自己資本の拡充 <ol style="list-style-type: none"> ①規制改正に伴い、新OJK (インドネシア金融庁) 規制に基づき、2021年度末Tire1資本2Tルピア。2022年末Tire1資本3Tルピアの達成へ向け、外部投資家からの調達やM&A等検討中 ・マーケティング活動 <ol style="list-style-type: none"> ①各種キャンペーンを行い、預金残高を増加 <p>(Jトラストインベストメントインドネシア (JTII))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回収金の最大化を図るべく、管理部門の体制、仕組みを見直し、早期回収に向けた対策を検討。法的回収部員 (弁護士資格合格者等)、鑑定評価士の増員、オートコールシステムの本格稼働等により法的回収を強化 <p>(Jトラストオリンピッドマルチファイナンス (JTO))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンデミックの影響を受けない農機具ローンのみとし、債権管理、回収業務に注力。コスト圧縮の為、ITシステムをデジタル化し、約1,000人の人員削減と、支店数の最小化を実施中。 <p>(Jトラストロイヤル銀行/カンボジア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスバンキング部門 (中企業向け金利の取れる層) が堅調で、資金需要は堅調に推移。ローンの原資となる、預金獲得を強化したことにより、貸出も順調に増加中。また、各種マーケティング、キャンペーン等により、利便性の向上、取引手数料の増加を図る
	営業利益	-4,389	-2,084	—	
投資事業	営業収益	646	427	66.1	<ul style="list-style-type: none"> ・Group Lease PCL.に対する債権回収に重点 2021年7月19日のリリースのとおり、シンガポールでの訴訟判決における損害賠償及びシンガポールにおける訴訟費用については全額回収済み。今後も裁判費用等の回収コストを抑制しつつ、回収強化を図る
	営業利益	5,301	5,390	101.7	
その他の事業	営業収益	506	361	71.4	
	営業利益	-200	-41	—	
連結	営業収益	42,101	22,340	53.1	
	営業利益	5,503	7,160	130.1	